

平成26年度 第1回米子市公民館運営審議会 議事概要

1 日 時 平成26年11月26日（水） 午前10時～午後12時

2 場 所 明道公民館 2階 第1研修室

3 出席者

【委員】

ト藏久子委員（会長）、勝部将之委員（副会長）、岡崎茂委員、湯浅厚子委員、小椋康史委員、小谷幸久委員、内田信義委員、安達博志委員、松本寿栄子委員、實近孝子委員、松原郁子委員、米澤武夫委員、吉居努委員

（欠席：野村洋文委員、早原彰子委員、岡田信行委員）

【事務局】

生涯学習課

永見教育委員会次長兼生涯学習課長、幡井課長補佐、西古主任

4 日 程

（1）開 会

（2）会長あいさつ

【ト藏会長】

これより第1回公民館運営審議会を開催いたします。各公民館においては秋の大運動会、公民館祭と大変急がしい事業をこなされております。みなさんも、日々時間がある時に、各公民館訪問をしていただいたり、運動会や公民館祭を見ていただいていると思います。公民館の運営について審議する会ですので、公民館の現状を把握して理解したうえで、話し合い議論をしたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。そうしましたら、事務局より公民館事業の概要を説明して頂きたいと思います。なお質問については、説明を受けた後に受けたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【事務局】

「公民館事業の実施状況について」一事務局から説明—

【ト藏会長】

それではこれより、ご質問を受けたいと思いますが、公民館の運営について建設的なご意見をいただき、話し合い出来ればと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。それではご質問のある方、挙手をしてお願ひいたします。

【松本委員】

先日、倉吉の社会教育研修会に参加させて頂きましたが、茨城大学の長谷川幸介先生

のお話がすごく共感できるものでした。やはり学校・地域・家庭とのつながりの中で、地域の公民館の役割をふまえ学習講座を実施していかなければいけないと感じています。それで、前もって資料を見させてもらいましたが、人権と家庭教育講座は必修だという事ですが、家庭教育については、実施していない公民館もあります。いくつかは教養講座に変わっているのかなと理解はしているんですが、家庭教育・健康・教養講座については、やはり学校、家庭の連携をもったつながりの中で企画などを進めた方が良いのではと思います。一生懸命に公民館事業をされていると思いますが、若い世代を巻き込むことも必要になってくるのではと感じました。このままでは本当に若い人達がなかなか入ってこない、公民館がなくなるような危険性にもなっていくのではないかと感じていますので、企画の時点で小学校のPTAさんとか中学校の方などを巻き込んで、先ほど言いましたような講座を2つ・3つ取り入れて参加しやすい講座になるよう検討していく必要があると感じました。

【米澤委員】

私も倉吉の社会教育研修会に出させていただきました。米子からは会長さんはじめ、ボランティアグループの方達の発表を聞き大変参考になりました。ありがとうございました。ぜひ、こういった機会に他のグループの方達も発表していただけると参考になります。ただ、全国的なことですが社会教育は方法論が先行しており、社会教育の理念ですとか使命というものが後回しにされているように思います。そのために、公民館が果たすべき社会教育における使命というものが何をやったらしいかと迷いがあり、近頃では米子でも、まちづくりのモデル地区の取り組みが行われていますが、社会教育の使命をもう一度原点に戻って考えるのがこの会の趣旨ではないかと思います。それから、教育委員会はもちろんですが、公民館職員が地域活動のコーディネーターの役割を果たさないといけないと言われているのに、この議論が非常にないがしろになっている。公民館運営審議会の役割から考えて、そこらへんが全く議論されないということはせっかくこのような貴重な時間に各委員に出ていただいているのに非常に残念に思います。教育委員会の諮問がないから審議会の役割がないのではなく、今後公民館をどのように運営していったら良いのかをもっと職員の専門会議の中で検討し、その内容を事務局が吸い上げ、公民館長、自治会長などともっと議論をしていく必要があると考えています。

【吉居委員】

わたしが思いますのに審議委員会12ヶ月あるなかで今回1回目ですが、審議会のなかには定例会はないんですか。

【幡井課長補佐】

特に定例会はないですが、年2回程度の開催を想定しております。

【吉居委員】

これから公民館をどうしようかという問題を、年に2回の審議会でどのような成果が得られると思いますか。資料を見ますとだいたい似たり寄ったりの問題があがっています。教養、現地学習など、公民館運営も似たり寄ったりですが、このなかで危惧しているのが参加者が高齢化した中で、足腰が弱くなつて、集まりが悪くなり、地域社会はどんどん高齢化してくるわけです。でも、若い人も育つてきている。事務局の説明にあつたように、若い人をどのようにして集めるかの広報活動が重要です。この度の議会でも、インターネットで議会中継をするようになりました。だから一歩前に進み、何をするのか、どういう成果を残すのか、そして公民館を残していくかといけない固い決意、これは公民館がひとつの地域の集会所や研修施設に様変わりして、それでいいのかということです。21世紀に入った中で文科省の指針もあるでしょうが、地域から何を発信するか、ほんとにやる気があるかないかという事です。年に2回会をして、はい終わりましたではなく、公民館長さん達が年に何回会合をもたれるのか、われわれ審議会委員はその会合に参加し、発言しなくてもいいので、お話を聞きたい。われわれ審議会委員というのは教育委員会の直轄部隊だと思っております。教育委員会の直轄審議会委員として何をするかです。以上です。

【幡井課長補佐】

まず、松本委員さんが言われました学校との連携の問題ですけれど、言うまでもなく、従前から大きな課題として考えておりまして、公民館祭や一部のイベントにおきましては、学校と連携をして展示物等を展示しています。これは、ほとんど全部の館がやっております。ただ、おっしゃるように単発的なものでなく、普段の公民館活動の中から連携を強化するには、どうしたらよいかを今後十分に考えていく問題だと思っています。その中のひとつである各種講座については、企画段階で学校関係者に参画していただいている館も多くあります。

米澤委員さん、吉居委員さんからいただきました、公民館活動の今後のあり方についてのご意見につきましては今後の活動の参考にしたいと考えています。それと、米澤委員さんが言われましたモデル事業の話ですが、検討の中身といたしましては、公民館のあり方というよりも、各地域の住民主体の活動のまとめといいますか、様々な活動を見つめ直して、今後残していくべき事業、あるいは見直していく事業を把握して今後どうして行くのか、という議論がされていると聞いております。また公民館は地域の住民活動をコーディネートしていく役目は当然持っております、社会教育施設としての機能を果たしながら、地域の方の様々な活動に対してサポートする立場は従前から変わっておりませんのでご理解を頂きたいと思います。

公民館が今後どうあるべきかという議論は、実は館長会の中でも今、話しが出ておりまして、将来を見据えた公民館像について議論がなされております。その内容について皆様にお伝えできる状況になればお知らせをしたいと思っております。

吉居委員からご指摘のありました、館長会の公開については、現状、館長会は月に1

回行っておりまして、内容としましては、公民館は市の様々な部署からの業務を行っておりますのでその業務についての所管課からの事務連絡や、公民館内部の運営に関する連絡調整、諸問題を内部で話し合いをして解決していくための協議の場という形をとっています。あくまで内部会議ですので、今すぐ公開という事は考えておりませんが、協議の中身によっては、広くみなさんにお知らせすべき案件があれば、別途ご報告をしたいと思いますので、よろしくお願ひをしたいと思います。以上でございます。

【ト藏会長】

松本委員がご質問された学校との連携ですけど、中には地域の公民館に学年によって書道家がいらっしゃれば習字を公民館で習うとか、子どもの事業に対して公民館が取りまとめを行っている。全館ではないんですけどそういう努力をされているのも事実です。それと、米澤委員が言われた公民館の果たすコーディネーターとしての役割については、これは基本的にあたりまえの事で公民館職員は常に地域活動のコーディネーターの役割を担うということは、公民館職員の研修文書の中にも書いてあります。そういう意味でも、公民館職員にも県内の研修会などに是非参加して欲しいと常に思っています。吉居委員の質問に対しては公民館長会議は非公開との事でした。ただ、館長会議でどういう事項の内容が最優先に話し合いをされているかを、私たちに関係してくる内容も多々あると思うので、オブザーバーでの参加が出来なければ文書等で情報提供して頂けたらいいなとお話を聞いて思いました。

【松本委員】

資料の学習の中の家庭教育・教養・健康等の部分を見て感じることは、やはり年代が小さいお子さんからお年寄りまでという形のテーマですよね。岡崎先生が今日いらっしゃってるんですが、夜見公民館などで家庭教育講座などされていますよね。その様に地域にある中学校の先生の話を公民館でも取り入れるとか、具体的なものを取り入れながら、まず一步のつながりみたいなものを提案したいと思います。これは批判ではなく、これから公民館を運営するにあたって学校との繋がりを作っていくために、何をすればよいか、学校も忙しいでしょうが、中学校区には、小学校もあり保育園もあり幼稚園もあります。これらが一緒になって公民館の講座に参画することは出来ると思います。そのような発想が無いようにわたしは思えましたので、先ほど言いました提案を取り入れていくと、さらに地域に繋がっていくのではないのかなと私は思います。

【ト藏会長】

中学校や小学校においてもいろんな課題はあると思います。今ほんとに家庭教育が非常に厳しい状況をむかえているのが事実です。講座を開くにも、やはり曜日とか、時間とか考慮していかないと、子育て世代の人達の参加に繋げるためには、公民館だけではなかなか対応も難しい、学校もそうですし、各公民館のなかでは運営協議会・運営委員会が設置してあるはずですから、そこがもっと機能しないといけない。さっき松本委員、

米澤委員、吉居委員からのご提案の課題をなんとか少しでもクリアするためには、より多くの人の繋がりがあったり、情報提供があったり、その中で学校とも当然連携していかないといけませんし、思春期の難しい問題も現実に出てきております。岡崎先生が代表で出てきておられますが、できれば現状を、今一番何が求められるのかという情報も提供してくだされば、公民館の方もそれを必修のほうに入れることは可能であると思います。

【岡崎委員】

平成25年度は、夜見公民館と富益公民館で、中学校の子ども達の現状だと、家庭教育の問題などについて話をさせてもらいました。一番大事なのは中学生や小学生が今どんな活動をしているか、どんな勉強をしているか、どんな様子であるかなど、やっぱり地域の方に分かってもらって、支えてもらうことが大事だと思いますので、情報発信は必要だと思います。それぞれの校区の中学校・小学校の校長先生方、または養護教諭も含めて、色々話が出来る機会があるといいかなと思っています。全員が仕事をもっておりますので、皆が承諾とは限らないですが声をかけてもらったら、考える事も出来るかなと思います。あと、公民館の方に学校に来て頂いたり、全員が出来る事ではないですが、尚徳中学校にいた時代から公民館だよりにコラムを作つて頂いて、中学校の現状の発信をさせてもらっています。それで、学校と地域のハードルを低くすることができるのではないかと思います。あと、ほんとにうれしいのは公民館祭や校区民運動会、町民運動会の時に中学生・小学生を招いてもらってボランティアをさせてもらえることがほんとうに助かります。そのなかで、私は弓中校区ですが公民館が役割を与えてくださつて、生徒を中心にして出発とか景品渡しとかをさせてもらっています。そして、大人の方はバックにおられる事が、ものすごくありがとうございます。そういうことをしてもらえると、子どもは地域で育つといいますか、地域が大好きになっていく、そういう関係が出来て行く、とてもいい事だと非常に嬉しく思っています。

【ト蔵会長】

運動会は定着しましたね。公民館祭もお茶の所であったり、食事が出来る所であったりいろんな場面で、中学生の方達がみられました。

【岡崎委員】

ありがとうございます。

【ト蔵委員】

これは提案ですけれど、岡崎校長がおっしゃられたように、今、学校がどんな様子なのかを私達も小学校長さん、中学校長さんのお話を聞く研修会などあって良いと思いました。

【實近委員】

平成24年度はどの公民館も、同じ様な講座が多いなと思いましたが、平成25年度は館によって、ずいぶん違ってきているな、少しずつ進歩していて、住民の方が加わり、特色のある講座など計画している館が増えたと思ったんですが、どうでしょうか。

【ト藏委員】

~~できれば~~今年度の年間の事業計画一覧表は、もう提出してあると思いますので、できたらそれも添付してくだされば、見比べる事が出来たかなと思います。

【幡井課長補佐】

申し訳ございません。

【米澤委員】

この資料をみると、講座の時間がわからないんですよね。午前中なのか午後なのか、やはりそこらへんも大事な事で、私が見たところ時間で見ていくと午前中にされているのが、義方・福生東・大和の3館だけで、あの館はほとんどが午後です。午後の中でも夜一部やっておられるのは春日、巖は平成23年度まで夜間にされていましたが、今は全部午後にされています。そういう状況ですから、開催時間もターゲットによっては時間・曜日等を変更する事も考えていかなければいけないという、難しい問題もあると思いますが、おいおい進めていけばよいと思います。

【ト藏会長】

できたら、曜日も入れていただきたい。

【米澤委員】

もう一つよろしいですか。實近さんがおっしゃいました公民館大学の講座も254あるわけですが、内訳を調べたところ、1位が家庭教育で96件、2位が現地学習・野外学習が48件、市民意識が54件、教養が35件、音楽が16件、交流会（ふれあい学級反省会）が5件でトータル254件、内訳で約40%が家庭教育ですから、米子の方針が見事に貫かれている。ただ家庭教育講座を1回もやらなかった館も残念ながらありました。

【ト藏会長】

家庭教育・人権は必修だとうたってありますので、来年事業計画があがってきたおりに家庭教育がなければ訪ねていただくのもひとつ的方法だと思います。

【吉居委員】

何年度から必修になりますか？

【幡井課長補佐】

数年前から必修となっております。

【吉居委員】

住民にはほかの地区的公民館の活動資料が入ってこない。だから、これがインターネットなどで一般に公開されれば、いい講座があるから行こうと思う方も出てくるのではないか。

【幡井課長補佐】

確かにおっしゃるとおりでして、各館の資料を各家庭にお配りするのは難しい事ですので、いちばん便利な広報手段としてインターネット、ホームページの活用が重要であると考えています。館によっては公開講座を開講している館もございますので、私どもとしましては、ひとりでも多くの人に参加して頂くよう、また他の地区にどんどん行ってやろうと思う方が増えるように、引き続き、ホームページを使った情報提供に力を入れるよう館の方に指導していきたいと思っております。

【吉居委員】

それからもう一点、公民館長は名刺を持っているのに、なぜ公民館運営審議会委員は名刺がないのか。初対面なら必ず名刺を交換しますよ。すぐに名刺を作つて下さいと言いたいですよ。でも、すぐには無理でしょ、予算の関係もあるし。日本の伝統文化ですよ、必ず名刺を持って歩くんですよ。だから、名刺はどうですかと前から言つているんです。

【ト蔵会長】

名刺については、生涯学習課の方でご検討ください。出来れば名刺がなくても公民館職員に顔を覚えてもらって、話し合いが出来るような事はしていきたいと思います。それと、吉居委員からの、他公民館からの情報とおっしゃいましたが、ご足労ですが生涯学習課まで出向いて頂ければ、月の半ばには一覧が出ています。

【吉居委員】

委員として、情報を下さいというわけではないんです。どこで、どういう催しがあるかを事務局は情報発信しないといけない。

【幡井課長補佐】

そのような広報手段の一つとしてホームページの活用を考えています。

【ト歳会長】

ホームページは全館揃っていますか。

【松本委員】

去年も私言ったはずですが、ホームページの内容に本当に温度差があり、検索しても全然行事が出てこない館もあったりするので、それをお願いしますという事を去年も、一昨年も言いました。是非ホームページが充実して見られるように、よろしくお願ひします。

【吉居委員】

岡崎先生が言われましたが、運動会に中学生が参加するのは所によって違います。私は車尾の公民館長や、自治会長にも言っていますが、今まで運動会は公民館主催・自治会は後援であったのに、それをこれからは子ども会が主催しなさい、そして公民館と連合自治会・老人会は後援にあたれと。自治会加入率が低い中で子ども会は運動会を主体となってやれば、当然子ども会には皆さん入って来ます。だから、子ども会がやれば、自治会うんぬんではなくて、運動会に参加できるんです。そうした中で、古いも若きも一緒になってやればコミュニケーションがとれる。そして高齢者の方も若い方も地域といふものを理解してもらえる。

【小椋委員】

吉居委員さんが言われましたけれども、子ども会・PTAを巻き込んでやろうという声は公民館でもあります。27連合会ありますけど、自分の地区では公民館長や連合会長や社福会長、この三本柱すべてが順繰りまわっておりますけれども、全地区が同じような状況では必ずしもないのが現状です。公民館と連合会、それぞれの思いがアンマッチなところもあるようです。まあ、そうした所は少ない様ですが。子どもの少子化も進んでおりまして、尚徳においては今年から、小学校1クラス。永江団地がだんだん高齢化して減ってきますし、小学校の統廃合などが起きてくるのではないかと思っております。地区によっては、マンモスになっている学校もありますが、そういうところはPTAの協力も得やすいと思いますが、小地区においてはやはり、若い親御さんたちも勤めをされてますし、なかなかそのような活動に参加してもらうのも難しいなと思います。地区によっては公民館が主体となってされているところもあると感じております。ついでないだ福山の研修会に行ってきました。地域振興会まちづくりというのがあります。公民館の職員さんは、三年か四年のローテーションの中で、自分が担当している地区の情報をよく把握して、新しく地域に来られた方にも説明できるようになっているようです。三人職場での仕事量の負担があるので、できれば住民の方達から、色々な要望をだしてもらって、公民館に情報が上がってくるようになればいいなど、お話を聞いていました。あと、防災訓練が単独自治会だと出来ないので、1、2地区がまとまってされていました。そのような事もこの地域のつながりの強さを感じ、そのような風土が米子市

でも生まれてくれれば、うまく回っていくのではないかと思いました。

【湯浅委員】

子ども会も平成17年度から平成26年度に全国子ども会に加入した数を、一応子ども会の人数として把握しておりますけど、10年間で約1,000人会員数が減りました。平たく言えば、1年に100人ずつ子どもの入会数が減っている事になります。鳥取市や他県は子ども会の加入率が30~40%と低いが、米子市の加入率は90%と高い、誇れる数です。加入しないという理由は、親が役員をしたくないので、自治会や子ども会に入らないのが一番多いですね。一般的にほとんどの方に入ってもらっていても、それだけ人数が減っている現状がひとつと、米子市の子ども会連合会は、親育てと子育てと二本立てで推進しております。子どもがしたくても、親が理解して参加させてくれなければ、子どもは地域の行事に参加できません。その様な事もあって育成者研修というものを年に3回行っており、まず子ども会ってなーに?という話を4月に5館を借りまして、300人くらいの延べ人数、出席者で5つのブロックに分けまして夜開いており、子ども会の話、子ども会活動を支援してくれる団体の話、安全会の話、市子連が何をやっているか、分からぬ事があれば市子連に聞いてくださいというような話や、子ども会の役員になった人にお話をします。その他にも、前期と後期に分け、児童文化センターで育成者を100人くらい集め、教育学の先生や親育て指導者の方の講演を行ったりしています。単位子ども会は、今の公民館と直結しています。3月に優良子ども会表彰をするんですけども、どの報告書を拝見しても地区の活動に参加していて、公民館とも密着し活動もしております。今言わされたように、子ども会が主体となって公民館の運動会をするのは、話が逸脱してるなと思ったんですけど、声を掛けて頂いて、巻き込んで頂いて、子どもを地域で育てていく事はとても大事なことなのですが、今、なかなかやってくださる方がいなかつたりして、PTAにお世話になる子ども会が出来つつあるようです。こないだも、子ども会で話をしたんですが、子ども会は地域で育てるもの、子どもは地域で育ててください、学校のPTAの中だけの子ども会にしないようにとお願いをしました。一番は、子どもを育てないといけませんが、親も育てていかないといけない、という問題が出てきていると感じています。

【ト歳会長】

ありがとうございます。なかなか今組織で、役員になってくださる人がないのが現状で、PTAも大変苦労していらっしゃる話も聞きます。

【安達委員】

先ほど吉居委員さんも、地域と子ども会が一緒になって運動会をとお話しがありましたけれど、私はスポーツ推進員をしていますが、河崎公民館が小学校の運動会と公民館の運動会と一緒にやっていると聞いております。実際当日運動会には行っていないのですが、米子市で一緒にされているのは河崎公民館だけじゃないかと思いますが、大変と

いうこともきいております。

【吉居委員】

私が言いたいのは、わたしが自治会長をしている時は2区で100人所帯あり、わたしが若いとき、子ども会が解散状態になりました、そのなかで子ども会の建て直しをしました。有志の会をつくり、若い人を集め自費で飲んだり食べたりして交友を深め、運動会連続優勝したり、大人が仲良しなれば子どもも仲良しになり、若い者とお年寄りが一緒にりんご狩りに行ったりなど、活動が盛んだった。そういう経験があるものですからそういう発言をしたんです。

【安達委員】

子ども達がいれば当然親も来ますので、ものすごく盛り上がります。

【ト蔵会長】

安達委員さん米子市内の校区民運動会で、体育委員さん達は当然関わっていらっしゃいますけど、どういう現状かを把握はしていらっしゃいませんか？

【安達委員】

各公民館にはスポーツ推進員が2名以上必ずいます。公民館長推薦は2年任期ですが、教育委員会からは館長さんに男性1名・女性1名を推薦して下さいとのことでお願いしておりますようですが、実際には人選に苦労しています。名27公民館で54名、教育委員会推薦が21名の75名いますが、女性は25名と比率が低いですけども、公民館選出のスポーツ推進員は、体育部の中の部員、もしくは顧問として、地域に生涯スポーツや運動会のアドバイスなどする立場でやっています。グランドゴルフ・ペタンクなど、とっつきやすいものを取り入れて行く様な活動もやっております。

【ト蔵会長】

ありがとうございます。ほかに何かございませんか？

【小谷委員】今回資料を見させてもらって、課題のところに参加者の高齢化・固定化いろいろある中で、たとえば福生西公民館では、自治会長さんに呼びかけて、サークル活動を活発にしてもらうとか、福米東公民館では若い世代の方を取り入れるため、家庭教育講座を小学校で実施したという事もあります。それから彦名公民館では、地元で活躍している方を講師で頼み、受講生の参加が少し増えた事などから、新しい取り組みをされているなと思いました。今年、日展がありましたよね。私は福生8区の公民館に所属していますが、福生8区に日展に入賞された方がおられまして、米子で展示されました。しかし、ほとんど誰も知らないという事があって、8区の自治会の総会がありまして、

せっかく8区の住民の方が日展に入選していらっしゃるので、その方の作品出展に対する気構えなどを知る場があればいいんじゃないかなと提案しました。結果的には、呼びかけは美術館でしたが、公民館を借りてやっていただき、結構な人が集まられました。あと年に2回公開学習がありますよね。地域には、学校から案内がされていると思いますが、誰かの話しの中で出できたように思います、学校公開をされる時に公民館が主導的な動きをされると、もっと学校と公民館の連携が取れるんじゃないかと思います。最後に、私は皆生養護学校に勤めていましたが、皆生養護学校はかなり学校が地域に呼びかけています。なかなか子ども達が外へ出れませんので、地域の方に来て頂いて、現状をみてもらい、障がい者問題を考えてもらえる場を積極的に設けています。そういう呼び掛けがあった時に、公民館、自治会なりがたくさん人を募って、出かけてみると、公民館活動も発展して行く機会になる、そうして行かないといけない、そう思いながら報告書をみさせて頂きました。

【松原委員】

去年から淀江では、道草日和をだしています。公民館を利用してもらう、淀江を知つてもらう講座を、一回の講座は1~5名少數ですが、皆さんのが計画を立てて、館長は草木染め、私自身はどんぐりを拾って竹筒ご飯作りなど、色々な催しをしています。違った面から公民館を利用して、繋げていけるという発見もありました。地元でもいっぱい知らない事があるので、再発見という形で今までの公民館講座とは違った面で、何か出来るのではないかと思っております。以上です。

【内田委員】

みんなの発言を聞いていて、公民館長はじめ、職員の方も大変だろうと思います。資料をみると子どもの事業が多く入っていますが、夏休みの短期間に集中しているので、子どもも大変かなと思います。年齢構成を若くしていくのは非常に難しい、ただ時代の流れで、仕方ないところもあり、今、一生懸命働いている方が卒業されれば、その方達が次を担っていってくれると、諦めないとけんところもあるなと思っているところです。自分自身がすでに、みなさんにお世話にならんといけない者が、まだ世話をさせられるとするという事態でございますので、やはり人の若返りというのは、大切だらうと思いますし、特に先ほどからも話しがありました、地域をこれから担っていく子どもはもちろんですが、その親御さん方が地域に対して、もっと関心を持ってもらいたいと思っておりまして、学校の行事には努めて参加させてもらっております。公民館は特に学校と仲良くしていかないといけない気持ちであります。特に、富益では、若い人との連携が難しいもんですから、公民館から保育園に出向いたりしていますし、特に人権については、今年は安来の方で「笑顔で生きる」をテーマに、障がいをもたれたお子さんを育てられているお話を聞かせて頂きました。みんなの話を聞きながらこれから公民館活動も更なる充実を図っていかなければいけんなと思います。よろしくお願ひいたします。

【勝部副会長】

資料を送って頂いて、成果・課題・内容を見させてもらい、そして今日のお話を聞いて課題は沢山あるなと思いました。ただ、嘆いてばかりでは、そのなかで一緒にやっていこうかという事にならないので、やっぱり参加している人を大事にして、参加して良かったなと帰れるようにならないと、繋がって行かないんじやないかと思います。米澤委員さんも、社会教育の発展という大事な事を言われましたが、そこを頭におきながら公民館の役割を果たすために、集い・学び・繋ぐがあるんですが、そのなかでも繋ぐってところが、もしかしたらまだ弱いのではないかと思います。たとえば各公民館いろんな内容が展開されていますが、この中身も知らずに勝手な事を言って、各公民館に失礼なんですが、単発というか、講師さんの話を聞いて良かったなで終わらず、講師の方などに自分たちの地域の説明などをして、繋がりをもち、ひとまちづくりなども、そのあたりを押さえていかないと、次の世代に繋がっていかないのではないかと思います。今はお金さえ出せば、自分が求めている情報が手に入る時代ですが、あえて公民館活動のなかで社会教育活動を大事にして、地域との繋がりを深めていくことに1番重点をおいていかないといけない、私達委員も努力をしないといけないと思っています。そして公民館がやっていることは、カルチャーセンターとは違うという事を横においてしまうと、公民館の存在が無くなってしまうし、社会教育を学ぶ場、我々が生き生きと生活していくための場所が、薄れて無くなってしまうと思います。本当に私の知らない課題が沢山あることを知り、私も勉強不足だと改めて感じています。

【ト蔵会長】

ありがとうございました。時間はかかりましたが、全委員さんから発言をいただきながら、成果と課題についてのご意見も頂きました。そして、新しい取り組みのヒントになるようなご意見も聞かせて頂きました。ただ、公民館活動は日々行われております。毎回言い続けていますが、ぜひ普段公民館を訪問していただいて、できれば事前に連絡くだされば、公民館も資料を揃えたりできると思います。地域の人とも繋がり、公民館が核になる地域住民の活動の場の提供、情報収集・情報発信あらゆるものを公民館職員は担っておられます。ぜひその辺は、ご理解を頂いて、もっともっと公民館運営が、一步でも二歩でも前に進んで行けるような審議会にしていきたいと思います。それでは事務局より、その他で何かありますか？

【幡井課長補佐】

1点お願いがございます。別添でちらしをつけています、公民館のふれあい発表会がございまして、これは毎年行っております。本年度は、1月16日から18日の3日間かけて、米子市の文化ホールで行う予定にしております。内容は日ごろ公民館でどのような活動を行っているかを、広く市民の方に知って頂くためのものでございます。作品展示の部と、舞台発表の部と分けておりますが、作品展示は各公民館で活動しておられますサークルの作品を各公民館の代表的な物を出して頂き展示しております。舞台発表

の部は、同様にサークル活動をしておられるメンバーにご出演頂いて、メインホールの舞台で活動を披露して頂きます。16日と18日は作品展示のみですが、17日は舞台発表を行いますので、皆様お忙しいと思いますが、ぜひ足を運んで活動の内容をご覧頂きたいと思いますので、よろしくお願ひ申しあげます。

【ト藏会長】

ご説明頂きました、ふれあい発表会に寒い時ですが、これも情報収集になりますので、ぜひ委員の皆さんも足を運んで展示・舞台発表をみていただきと思います。本日はお忙しい中、長時間にわたりましてご意見を頂き、本当にありがとうございました。

5 閉会